

問題一

- 問一 1 若干 2 支度（仕度） 3 臨終 4 当該  
5 慣用 6 素朴 7 瞬き

問二 目の前の現実と関わりのない雑念や空想に耽っている状態。  
（27字）

問三 「今」とつぶやくことで、その「今」が人生全体のどこに位置しているか、またどのような過去を通過してきたかを自覚する行為。  
（59字）

問四 ある特定の時間を基準とした運動や変化の量が速さの定義であるため、時間それ自体の速さを認識するための基準が存在しないから。  
（60字）

問五 時間の速度は自らの心身と外界の事物の変化速度の比率によって認識される相対的なもので、客観的な基準がそもそも存在しないため、当然の基準とされている時間の速度自体が客観的に認識しえないものだという事。  
（99字）

問題二

問一 歴史は自由主義と民主主義の勝利で終わったわけでもなく、まとまりをもった巨大文明圏が複数立ち上がって世界を分かつこともなさそうである。  
(66字)

問二 ・イスラム文化内で過激派と穏健派が対立していること。  
(25字)  
・アメリカでトランプ派と反トランプ派が対立していること。  
(27字)  
など。

問三 共通の理念への同調者が各地に点在し、同一の方向性をもって運動し勢力拡大を図る点。  
(40字)

問四 情報通信技術が普及したグローバル社会で理念を広められること。  
(30字)

問五 地理的に一体の社会を複数のイデオロギーが分断し、情報通信技術とグローバル化がその理念に基づき各地に分散した人々を結びつけることで、既存の秩序を脅かす状態。  
(77字)

問題三

問一

ロ 正しい意味を明らかにする人がいなかった

ホ 一方では

問二

和歌の枕詞が、歌の一句目にあるのは「枕」という意味に適うと思われるが、三句目に  
あるのはどういう理由によるのかということ。  
(60字)

問三

枕詞は帝が歌を詠む際自ら思いつかない五字を臣下に補わせたことに由来し、「臣等」  
を「まくら」と読むことから枕詞と名づいた。  
(60字)

問四

枕詞の本義を和歌の奥義として外部に漏らさずいるべきだということ。

問題四

問一 a 〓あらためて

b 〓そなへ

c 〓あへて

d 〓かくのごとし

問二 これまさにくわさいあらんとす（と）

問三 優れた医者は病気がまだ発症する前になおし、賢明な君主は反乱の首謀者の計画を断ち切る。

問四 淳于髡の隣家が、火災を防ぐ方法を事前に告げた淳于髡には感謝をせず、火災が生じてから必死に鎮火活動にあたった人々を感謝してねぎらった、ということ。（72字）